

第4回 熊本市 総合計画審議会議事要旨

日 時：令和6年1月29日（月） 15：30～17:00

場 所：熊本市議会棟2階予算決算委員会室

1 出席者

【委員】 相藤 絹代 委員、貴田 雄介 委員、小林 寛子 委員、澤田 道夫 委員、
鈴木 桂樹 委員、中山 峰男 委員、八幡 彩子 委員、増淵 千保美 委員
※本間 里見 委員はご欠席

2 次第

- 開会
- 議事
 - (1) 市民意見の聴取について【資料1】
 - (2) 総合計画・最終案について【資料2】
 - (3) 熊本市人口ビジョンについて【資料3】
- 閉会

3 議事録

- (1) 市民意見の聴取について
- (2) 総合計画・最終案について
- (3) 熊本市人口ビジョンについて

中山会長：(1)市民意見の聴取について、並びに、(2)総合計画・最終案について事務局より説明をお願いします。

事務局：≪ 市民意見の聴取について、総合計画・最終案について ≫

中山会長：ただいまの説明を踏まえ、委員の皆さんからご意見、ご質問をお伺いする。

澤田委員：17頁の将来構想図自体は分かりやすいが、10分20分構想の青い○の意味がよくわからない。この丸に沿って道路を作るように見えてしまうが、これは大体この辺りに作るというエリアを表すものである。ラインで描くなど、少し見せ方を工夫することは出来ないか。

また、56頁ビジョン4の関連する出来事に、日本は、国連開発計画「ジェンダー不平等指数」で191か国中22位だった一方で、世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数」では146か国中125位とあるが、パブリックコメントで「ジェンダー・ギャップ指数は日本は低すぎて、一方ジェンダー不平等数は成績がよく日本は男女平等が実現されている」というコメントがあった。よくいわれるのは、ジェンダー不平等指数は、妊産婦死亡率、また10代で出産する割合など、健康面に比重を置かれた指数であり、自動的に先進国は軒並み良くなるようになっている。さらに日本は出産年齢も高くなり、人身売買など児童婚の問題もないため、必然的に順位が高くなる。よって高いからといって男女平等が実現

されているとは言えない。ただ、日本は男女不平等ではないとよく引き合いに出される。事実は事実であるためこの書き方でもいいが、課題はあることはきちんと市で認識していただければと思う。

増淵委員：28頁のこども関連から述べさせていただくと、こどもの貧困やヤングケアラーの問題は、こどもに焦点を当てた対策だけではなく、家庭全体を支える横の連携が必要だと感じる。パブリックコメントでもあったこどもの権利について、一般的な広報だけでなく、学校教育の1年生～6年生の中で系統的に学べる仕組みが必要ではないか。

また、ひとり親支援については、住宅の確保等に向けて公営住宅関連の施策との連携が必要ではないかと感じる。また、困難を抱える家庭やこどもたちからの相談体制の充実という点で、行政機関と支援団体の連携の際に、役割分担を決めながら連携をしていくという仕組みを作ることが、今後の実施計画を立てる上で必要ではないかと感じた。

八幡委員：非常に力作でブラッシュアップされたすばらしい計画ができたと感じた。

59頁の施策4-3に関わると思うが、ここでは多文化共生の視点や障がい者の視点、また男女共同参画についても包摂性の視点で大事に取り扱っていただいているが、性の多様性の問題については施策が具体的に上がっていない。例えば、まちづくりを進める中で、トイレの話一つとっても男女の分類だけでは収まりきらない。性自認の問題など、性の多様性、LGBTなどどの表現が良いかはわからないが、そのような項目を一つ設けてもらった方がいいのではないかと感じたい。

小林委員：何度も議論を重ねてきたため、中身が集約され、良くなった。特に観光の視点で施策2を見ていくと、様々な形で観光振興していくときに、熊本だけではなく世界的に見て、これからは持続可能なサステナブルなものが求められる時代となり、観光においてもサステナブルが一つのキーワードとなる。最終案にもサステナブルという言葉は持続可能なという言葉で何度も出てくるが、何がサステナブルなのか、何を体験できるからここはサステナブルな目的地なのか。たくさんある選択肢から、熊本が選ばれる非常に重要なファクターとなる。マーケティングのキーワードとしてサステナブルをどう使っていくかは重要である。

また、水も緑も豊富で資源がたくさんあるが、すでにある熊本の資源を改めて丁寧に掘り起こし、ターゲットを見極めて戦略的に売り出していくことが重要である。また、観光にとって異業種である農林水産業という熊本の強みがあるが、農林水産業の豊かさを観光にうまく活用することはできないか。農林水産と観光をクロスした発信の仕方がこれからは重要である。すべての要素は総合計画に詰まっているので、具体的なアクションプランでどのように外に向けて発信していくかに注力していただければと思う。

貴田委員：よくまとまっていて個別に気になる点は特にないが、市民の皆さんにわかりやすく概要版などでPRいただきたい。1枚で熊本市がどのような方向で市政を目指しているのかが市民に伝わるとありがたい。

また、各課で取り組むことだとは思いますが、市として計画期間でどこに重点を置くのかをある程度見えるようにしてもらえると良い。例えば渋滞はなかなか改善されていない感覚が市民としてはあると思うが、市としても色々取り組んでいて、成果の出ているものもあると思う。いっきに改善するのは難しいと思うため、取組状況とわずかでも改善している点を実感できるとよい。

相藤委員：とてもいい内容ができていると思うが、1月1日に大きな災害があり、非常にセンセーショナルに報道されている中、熊本地震の経験があるが、災害に強いまちというのが目次からは読み取れない。どこか目次などにあればいいと思う。ビジョン3で市民生活を守る強くしなやかなまち、とあるが、この中で記載があることがわかりやすく伝わるとよい。

また、56頁の関連する出来事に、令和6年に改正される、障がい者差別解消法を追加いただき、非常にありがたい。人権尊重が網羅されており、SDGsなども市民の皆さんにも普及されつつあり、いい内容だと思う。

鈴木委員：どの指数を取り上げるかは、その理由に、目指したい社会が背景にある。例えば、ジェンダー・ギャップ指数の成績は確かに悪いが、産業的に発達した先進資本主義国が、次に目指すべき方向は何かを検討した上で測った結果だったということかと思う。この表記はこれでいいと思うが、指標の取り扱いについては、何を目的に取り上げたかをセットに考えていく必要があるのではないかと思う。15～6年前の国の男女共同参画白書などは、全く別の指数を持って来ていたため、指標は時代や状況に合わせて考えていく必要がある。

全体を見た感想として、5つの区の記述が手薄で、どこも同じような当たり障りのない表現となっていると感じる。今後、どんなイメージで区としてのまちづくりをしていくか、実質を込めていくことが必要になってくる。というのも、熊本市が政令指定都市に移行するときの議論として、市民にアピールしたのは区ができる事であったと思う。それを踏まえ、それぞれの区で特徴あるまちづくりに取り組んでいくのが、計画内に反映できていければと思う。今後、各区が総合計画を踏まえて考えていくと思うが、実施計画を考える際に、区として何に注力するのかを決めて作っていただき、各区で広報していくことが必要である。

今回はビジョンを中心に組み立てたが、後は年度ごとの創意工夫、実施計画が問われてくる。今後の課題として丁寧に作っていただき、これも同様に広報、報告、検証が必要だと思う。庁内体制や政策実施の体制の創意工夫も、新しい総合計画に合わせて考えていく必要がある。

中山会長：各委員の先生方からご指摘いただいたことが今後しっかり生かされることを願う。

指標については、定量的なものはKPIとして使えるが、定性的な指標が多く、評価をするのはかなり難しい。県も幸福度を測る市民アンケートを取っているが何年取っても全く変わらない。成果指標の中に、定性的な評価を向上させると記載があるが、なかなか難しいことではないかと思う。できる限り、定量的評価で測れる工夫をしたほうが、取り組む側としても成果が見えやすい。また、定性的内容で評価するのであれば、市民の皆さんへの広報が重要ではないかと思う。

市政だよりも拝見したが、様々なチャンネルを活用して、行政の取組と成果を広報していただければ、定性評価も向上させることが可能ではないか。

大学においても、配慮が必要な学生が全国的に増えてきている。例えば、成果指標に、夢や希望を持っているか聞く指標があるが、小学生では 8 割と高いが中学生になると 6 割台に減っている。単にこれを向上させるという単純なものではなく、こどもたちが夢を持てる社会環境となっているか。こども局も出来ていることなので、こどもたちが自分たちの将来について描けるよう、教育現場と連携しながら取り組んでいただきたい。背景には大学入試があり、高学年になるに従い、夢や希望を失う若者が増えていくと思う。小学生、あるいは幼稚園にはもっと夢や希望を持つこどもが多い。そういった教育環境をぜひ熊本市より発信していただきたい。第 8 次総合計画が終わる頃には、指標にあるように、こどもたちがいきいきとして夢や希望を持つ熊本市になればいいと思う。

大西市長が様々な場面で話されていることがビジョンの中にしっかりと盛り込まれていて素晴らしい。ただ最近、TSMC について言及されており、熊本市の財政について、市内に大きな企業がなく、固定資産税による収入が少なく、財政がうまく回せていないとおっしゃっていた。今後は、TSMC ができて、地価の高騰が著しく菊陽町の次に、大津町が日本一となるなど、経済的に浮揚してきており、間違いなく熊本市も恩恵を受けていく。今後、熊本市もビジョンの中に TSMC を取り込みながら、経済発展に取り組まれることをご検討いただきたいと思う。

上質な生活都市熊本、というのを必ず実現できると期待しているし、今後、何らかの機会でバックアップさせていただきたい。

最後に、何か言い残したことや、熊本市に今後こんな形で貢献したいなどあれば、ご発言をお願いしたいと思う。

小林委員：本委員会とは別の委員もしているが、観光、宿泊税、インバウンドなど、コロナ後の回復のためにやらなくてはいけないことが山のようにある。今回は横串を指すというのが新しい市の方針でもあるため、観光、農業が単独で頑張るのではなく、そこが連携できるような良い橋渡し役が居ればいいなと思うし、私もできる限りのことに尽力したいと思う。熊本がコロナ後に様々な苦難を乗り越え、世界に飛び立つ最高のチャンスであり、これがラストチャンスかもしれない。アジアに近い地理的なメリットや、食など資源の豊富な熊本の強みを外に向けて全面的に発信することで、地域の人が誇りをもって喜んで外から来る人を歓迎するような、国際都市としての熊本の成長を見守りたい。

中山会長：他にご意見等はないか。

«一同意見無し»

中山委員：それでは続いて、(3)熊本市人口ビジョンについて、事務局より説明をお願いします。

事務局：« 熊本市人口ビジョンについて »

中山会長：ご意見やご質問等はないか。

澤田委員：社人研の推計を用いた結果、従前よりも将来推計が下振れしたということだが、これは熊本地震以降の転出状況も踏まえての推計ということで、どんどん少なくなるのは当然である。ただし、半導体産業の集積も高まり、熊本都市圏全体で見ると、2年連続で社会増など、日本の他都市には見られないような追い風が吹いている。社人研のデータはデータとして使いつつ、与えられたチャンスを生かして、推計ではこうだったが、こう改善した、市として色々な手を打ち高めることができた、ということが大事である。多文化共生も非常に重要で、大津町でも外国人が非常に増えていると実感する。多文化共生も重要となることも含めて、日本人の転入に加えて外国人の移住も併せて、推計に対してどう改善したということも実現していただきたい。

鈴木委員：質問だが、データ戦略課は、人口推計に関するデータ以外の指標等のデータもとりまとめられるのか。例えば、知りたいデータがあった時の窓口の役割も担われるのかどうか、教えていただきたい。

事務局：総合計画の指標を取りまとめるのは政策企画課と考えているが、データのとり方や取り扱い方は、データ戦略課で相談を受けながら一緒に考えさせていただきたいと思う。

鈴木委員：指標について、今日は指標一覧として出ているが、実施計画の段階となった際に、サブの指標も押さえなくては、メインの指標だけではすでに100%に近いものもあり、それらを支える定量的な細かいデータも考えていかなくてはいけない。その際に、各課とデータ戦略課で議論をしながら検討していかれるということか。

事務局：大西市長がマニフェストに掲げて設置した組織であり、市政のあらゆる面で、データに基づき施策を展開するため、専門的な先端組織を作り、あらゆる分野においてデータを重視した施策を展開していく組織である。当然色々な分野の相談を受けながら一緒にやっていく考えである。

八幡委員：人口置換の数値2.07には及ばないものの、希望出産率1.9は希望がある数値だと思う。大事なのは合計特殊出生率1.43との間をどのように埋めていくのか。いかに近づけていくのかの施策力が求められる。今後の分析に期待している。

中山会長：他にご意見等はないか。

«一同意見無し»

中山会長：今回人口ビジョンで示されたものは最低レベルの数値で、今後はTSMC関連で増えていくだろうと思う。ただし、見かけはどんどん増えていくが、できるだけ多くの子どもを生み、育てたいと思えるような環境をつくっていただきたい。人口ビジョンを土台にそれを上回るような施策の実行をお願いしたい。最後となるが、全体を通して何かないか。

«一同意見無し»

中山会長：ないようでしたらこれで終了とさせていただきます。

事務局：委員の皆様におかれましては、これまで4回にわたる会議、さらに前後の協議、打ち合わせの場も含め、熱心にご意見、ご議論いただき、また専門的な知見からのご指摘をいただき、こころより感謝申し上げます。

今後、この総合計画案につきましては、本日の議論も踏まえ、2月19日から開催される市議会に上程しまして、議決をいただきたいと思いますと考えております。

委員の皆様からのご意見やご指導をいただき、計画としてはなんとか形とすることができましたが、今後はこの計画に基づき、市民の皆様と共に、本市の未来に向けていかに取り組みを進めて、実現していくのが重要だと考えております。

今後は適切な進行管理を行いながら、事業の評価、検証を行い、本市が目指すまち姿、上質な生活都市の実現、に向けて、全庁一丸となって取り組んでまいりますので、委員各位におかれましては引き続きご指導いただければ幸いです。

今後とも計画推進に当たっては、ご相談、ご意見をいただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

閉会

以上